

第2回 加賀温泉駅駅名等検討委員会 議事録

■会議概要

- ・日時：2020年3月13日（金）15:00～
- ・場所：加賀市民会館3階 大ホール
- ・出席者：(委員)

出欠	所属・職	役職	氏名
出	北陸先端科学技術大学院大学教授	委員長	敷田 麻美
出	法七大学地域研究センター客員研究員	副委員長	岩永 洋平
出	加賀市区長会連合会会長	委員	佃 章
出	加賀商工会議所副会頭	委員	東野 哲郎
出	山中商工会会長	委員	櫻井 比呂之
出	山中温泉観光協会会長	委員	上口 昌徳
欠	山代温泉観光協会会長	委員	萬谷 正幸
欠	片山津温泉観光協会会長	委員	鹿野 裕司
出	加賀市各種団体女性連絡協議会会長	委員	林 信子
出	作見地区区長会長	委員	高橋 立也 (代理 竹内 和良)
出	加賀市議会新幹線・駅周辺整備特別委員会委員長	委員	辰川 志郎

(事務局) 加賀市建設部 (新幹線対策)、観光戦略部

■会議要旨

- (1) 検討の進め方及び今後のスケジュールについて
 - ・特に意見なし。
- (2) 「加賀温泉駅」駅名について
 - ・アンケート回収率 43%は昨今では高い回収率であり、階層ごとにデータがとれている。また重要項目（駅名を変更するかしないか）の結果では階層ごとのばらつきが少なく、信頼に足るデータとなる
 - ・約 90%の人が” 駅名を変更しないほうがいい” と考えている
 - ・” 駅名を変更しないほうがいい” 理由として、若い層では” 費用負担が大きい” を選択する割合が 4 割程度多い、約 7 割の人が”今の加賀温泉駅名になじみがあるから”今の駅名が最も加賀市に最もふさわしい”とした、負担金以外の理由を選んでいる

以上の検討理由により加賀温泉駅名は変更しないこととする

 - ・ 50 年前に加賀温泉駅の駅名が付けられた歴史的経過を大切にすることがある
 - ・観光資源開発や観光振興に、駅名変更に使われなかった負担金を費やすことを意見書に明記する
 - ・本委員会を設置したのは駅名変更を視野に入れていた証拠であり、アンケートによって世論誘導はしていない
- (3) 駅出入口名について
 - ・駅出入口名については広報かおよび HP で募集することとする
 - ・次回委員会で公募と委員の案を合わせて検討することとする
 - ・駅出入口名については、お客さんが混乱しないように、事務局で基準を作り、次回委員会で確認して採用する
 - ・公募をする際に今回の駅名変更に係るアンケート結果と判断経緯を説明する

■会議詳細

1. 眞田部長挨拶

第2回加賀温泉駅駅名等検討委員会にご参加いただきありがとうございます。第1回委員会から時間がだいぶ時間が経ちましたが、駅名を変更するかという重い判断が必要なアンケート調査を行うにあたり、アンケートの中身を精査していたためであります。後ほど事務局からアンケート結果を説明させていただきますので、ご審議いただきたいと思います。10月1日が加賀温泉駅開業50周年記念であり誘客推進を中心にイベントを開催する予定です。節目でもあるこの時期に本委員会が開かれることにご縁を感じる次第であります。本日はコロナウイルス対策で、がらんとした寂しい会場ではありますが、ご理解いただき、会を運営させていただきたいと思いません。

2. 意見交換

(1) 検討の進め方及び今後のスケジュールについて

内容についての異議は無し。

(2) 「加賀温泉駅」駅名について

- ・敷田) 駅名変更に関するアンケート結果を市民に公開する必要があると思うが、方法、時期について事務局はどのように考えているか。

→事務局) 6月頃、広報かが及びHPで駅出入口名の募集を行う予定がある。その際に、今回の検討結果について周知したいと考えている

事務局からアンケート（内容及び属性）についての説明

- ・佃) JRの利用率が少ないように見えるが、市全体での割合はどのくらいか。

→敷田) 都市化率など条件によって異なり、全国平均16%に対し、相対的に加賀市がどの位置にいるかしか分からない、詳しくは事務局で調べ後日回答。

- ・岩永) アンケートの回収率43%（1000件配布に対して回収432件）について、昨今の調査環境を考慮するととても高い数字である。10代の回収率が低いが、回答の重要な箇所年代別で全然違う回答になっていた時には特に気に気を付けなければならない。

→櫻井) 回収率43%は高い数字なのか？

→敷田) 回収率20%でまずまず、40%なら十分といえる。また回収率も大事だが、階層ごとにデータを抜き取れたかというのも大事な要素である。

→岩永) 昔は60%保証等と言われていたが、現在では、50%を切るのが当たり前と言われており、40%で十分と言える。

→敷田) 参考までにこれまで加賀市の行った他のアンケートでは

「高齢者の生活支援、介護予防に関するアンケート」 57.5%

「禁煙に関するアンケート」 27.4%

「加賀市の医療体制に関する市民アンケート」 36.0%

事務局からアンケート（結果）についての説明

- ・佃) 負担費用の1億程度を記したが故にこの結果になったのでは？

→事務局) 税金を負担する市民の代表として、費用負担を考慮して回答してほしいから記した。

→敷田) アンケート結果をみると、駅名を変更しない理由の7割程度が費用負担以外の理由である。

→岩永) 仮想市場評価法といって※のようなデータをアンケートに記載することは近年ではよく見られる手法。

※1 世帯あたり約3,400円の負担となり、また、加賀市における1年間の「まちづくり推進費」とほぼ同額

→竹内) ※はアンケートに記されているか、また1億円の根拠はあるのか？

→事務局) 下線を引いて記されており、1億円の負担は想定の話。

→竹内) 龍ヶ崎市の例では具体的な費用負担が出ているが

→事務局) JRに確認したところ、それぞれの駅によって異なる。駅の規模、その他交通等様々な要素が絡んでいるため、具体的には算出できない

- ・上口) 50年前に作見駅から加賀温泉駅に変更となった時、加賀温泉駅を市内3温泉だけでなく周辺の栗津温泉、芦原温泉も含めた温泉郷のハブ駅となることを想定して、加賀温泉駅と命名した。

→敷田) 歴史的経過は事実で無視できない重要なもの。意見書提出の際の特記事項に組み込んだほうがいい。

→林) アンケート結果を尊重するとともに、ここで使われなかった費用を実際に各温泉のPR等に使うべき

- ・東野) 駅名変えたほうがいいと答えた理由について、若い層に”良いイメージを持ってほしい” ”地域活性化につながる”と現状へのマイナスイメージの回答が多い。

→敷田) JRを利用する主な若年層にとって加賀温泉駅も加賀温泉郷駅も大差がないから選択肢から消去法でと思われる

→辰川) 今後50年で駅名を変更する可能性がある最後のチャンスだと思うが、アンケート結果を尊重

- ・敷田) 総括。

負担金の記載が結果に影響した可能性は否定できないが、“今の駅名に愛着がある” “加賀市にふさわしい”といった理由が全体の7割を占めている。回答が9対1と圧倒的なため、仮にアンケートを取り直しても結果は覆らないと考えられる。

最終的に市民アンケートを尊重した上で、付帯事項として歴史的経過の尊重と観光資源開発や観光振興に使われなかった負担金を費やすことを記すのが妥当。

- ・上口) アンケート調査自体が世論誘導であろう

→眞田) 本委員会が成り立っているのは駅名変更を視野に入れているからである。アンケートに関してもフラットに作成し、負担金の記載は吟味の中で必要と判断した。

3 駅出入口名について

・竹内) 北側のマイナスイメージ脱却を図りたい。

→敷田) 入口名に関しては本委員会にて最終決定できるので、イメージを払拭できるアイデアを出してください。名前は公募の中から選んでもいいし、組み合わせて選んでもいい。

3つの出入口があるのは工事の諸変更があっても変わらないか？

→事務局) 変わらない

→辰川) 委員会で候補を出して、公募する際の候補の一つにすればいいのでは？

→敷田) 公募の形ではあまり多くはない。候補を出してしまうと投票になってしまう。

次回委員会で公募と委員の案を合わせて検討することとする。

→東野) 出入口名の決定に際して基準を設けなくていいのか

→敷田) お客さんが混乱しないように出入口名の基準を事務局で仮に作り、次回委員会で確認して採用するのでよいか

→櫻井) 出入口名について、特に意見がない。

→敷田) 案は義務ではなくある人が出せばよい。

公募の際にはアンケート結果の周知を忘れずに行うこと

・敷田) 全体を通して何か質問等はありませんか。

無ければこれで議事を閉じます。

・事務局) これで閉会します。